

第2号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）
事業計画（変更計画）書

平成25年 6月 27日

1 実施主体

(1) NPO法人等が申請する場合

| | | | | |
|------------------|---------|------------------|------|-------------------|
| NPO法人等 (実施主体) | 種別及び名称 | 特定非営利活動法人おにスポ | | |
| | 住所 | 北海道登別市富士町4丁目6番地2 | | |
| NPO法人等 (連携先) | 種別及び名称 | | 担当者名 | 磯田大治 |
| | 住所 | 北海道登別市富士町4丁目6番地2 | 電話番号 | (0143) 81-7444 |
| 会議体に参画 する行政 | 名称及び部課名 | | 担当者名 | |

(2) 協議体が申請する場合

| | | | | | |
|-----------------------|---------------------|--------------|--------------|------|--|
| 協議体の名称 | | | | | |
| 代表構成員の団体名 及び代表者職氏名 | | | | | |
| 構 成 団 体 | 都道府県・市区町 村名及び部課名 | 事業における 役割 | | | |
| | 民間非営利組 織の種別・名称 | | 事業における 役割 | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | 住所 | | 電話番号 | |

2 事業概要

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 事業名 | 「夢工房葛桜」を中心とした「生きがい作り支援ネットワーク」構築事業 |
| 総事業費 | 3,622,000円（うち希望補助金額 3,119,000円） |
| 事業の実施期間 | 平成25年 7月1日から平成26年3月20日まで |

注：補助対象期間は補助金の交付決定日からとなります。

3 事業計画

| | | | | | |
|----------------------------|--|----------------------------|---|---------------------------|--|
| <p>地域における課題と事業の目的</p> | <p>東日本大震災から2年が過ぎ、今もなお原発事故により全村避難を余儀なくされている葛尾村では、長期にわたる仮設住宅での生活に、「心の栄養」が不足しており、特にまだまだ働ける中高年の方々への「生きがい作り」が急務である。私たちは昨年度、葛尾村が避難されている三春町に木工加工工房「夢工房 葛桜」を開設し、軽作業と自主運営の「場」を作りました。今回の事業ではこの「夢工房 葛桜」を活用し、作品の制作はもちろん、「夢工房 葛桜」を中心とした支援団体の全国的ネットワークを構築し、仮設住民の皆様と協働するイベントを企画・運営することで被災者の方々と繋がりを深め、共に事業を行うことで「生きがい」を取り戻していただくことを目的にこの事業を行います。</p> | | | | |
| <p>事業の目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●「夢工房 葛桜」の運営費のうち、売上等による自主財源を10%にする。 ●「夢工房 葛桜」を中心としたイベントを年3回開催し、今後構築するネットワークと仮設住民の協働による運営を目指す。 ●上記2つの事業の実現に向けた研修会を開催し、運営スキルの向上を図る。 | | | | |
| <p>事業内容</p> | <ol style="list-style-type: none"> ① ふく福プロジェクト 実施時期：通年 会場：夢工房葛桜 参加予定：年間1200名(延) ② 全国物産展(仮称) 実施時期：11月 会場：夢工房葛桜他仮設住宅 参加予定300名 ③ 元気アップフェスタ(仮称) 実施時期：2月 会場：仮設住宅5か所程度 参加予定300名 ④ 各種研修会(会計処理・危機管理・被災地から(講演会))全3回を予定 実施時期：8月から12月(予定) 会場：夢工房葛桜・登別市市民活動センター他 | | | | |
| <p>見込まれる成果</p> | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td data-bbox="448 795 558 1075"> <p>1. 本県の復興支援・被災者支援の観点</p> </td> <td data-bbox="558 795 1428 1075"> <p>「与えられる」支援から脱却し、支援組織と連携・協働することで地域住民が主体的に行動し達成することで、本来皆様がもっている「意欲」を引き出し、「やりがい」や「生きがい」を取り戻していただくことが期待される。</p> <p>様々な支援の在り方がある中、それらの団体が集う「場」の存在を発信し、連携することで小さな支援の「輪」が大きな「輪」となり波紋のように広がっていくことが期待される。これまで、支援したくてもどうして良いのか分からなかった団体が多くあり、支援の方法についても情報提供し、被災地との「絆」を深める機会を創出することが可能となる。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="448 1075 558 1574"> <p>2. 取組実施主体の運営力強化の観点</p> </td> <td data-bbox="558 1075 1428 1574"> <ol style="list-style-type: none"> ① これまではNPO職員が職務の中で対応してきた。この事業を機に組織編成し、理事を中心とした担当部署を設置することで、事業内容を理事全体で網羅することが期待できる。 ② 全国ネットワークの構築を目指すため、連絡協議会等との連携やSNSの活用など、専任セクションの設置を図り、情報の全国的な共有を目指す。 ③ NPO法人の職員や理事以外に、ボランティアの編成を行い、可能な限り事業のサポートを通じた交流を図る。 <p>上記の3点を重点項目に据え、各種研修を受講し、運営力の強化を図ることはもちろん支援先に出来るだけ出向き、交流し、実施体験を通じて被災地の「自立に向けた支援」を目指すことは、これから先我々が「新しい公共」を担っていくための人材育成にとってこれ以上ない経験の「場」となることに違いありません。また、交付金の事務処理などを適正に処理することで事務局の緊張感も高まり、今後の運営に自信をもって取り組むことが期待できます。</p> </td> </tr> </table> | <p>1. 本県の復興支援・被災者支援の観点</p> | <p>「与えられる」支援から脱却し、支援組織と連携・協働することで地域住民が主体的に行動し達成することで、本来皆様がもっている「意欲」を引き出し、「やりがい」や「生きがい」を取り戻していただくことが期待される。</p> <p>様々な支援の在り方がある中、それらの団体が集う「場」の存在を発信し、連携することで小さな支援の「輪」が大きな「輪」となり波紋のように広がっていくことが期待される。これまで、支援したくてもどうして良いのか分からなかった団体が多くあり、支援の方法についても情報提供し、被災地との「絆」を深める機会を創出することが可能となる。</p> | <p>2. 取組実施主体の運営力強化の観点</p> | <ol style="list-style-type: none"> ① これまではNPO職員が職務の中で対応してきた。この事業を機に組織編成し、理事を中心とした担当部署を設置することで、事業内容を理事全体で網羅することが期待できる。 ② 全国ネットワークの構築を目指すため、連絡協議会等との連携やSNSの活用など、専任セクションの設置を図り、情報の全国的な共有を目指す。 ③ NPO法人の職員や理事以外に、ボランティアの編成を行い、可能な限り事業のサポートを通じた交流を図る。 <p>上記の3点を重点項目に据え、各種研修を受講し、運営力の強化を図ることはもちろん支援先に出来るだけ出向き、交流し、実施体験を通じて被災地の「自立に向けた支援」を目指すことは、これから先我々が「新しい公共」を担っていくための人材育成にとってこれ以上ない経験の「場」となることに違いありません。また、交付金の事務処理などを適正に処理することで事務局の緊張感も高まり、今後の運営に自信をもって取り組むことが期待できます。</p> |
| <p>1. 本県の復興支援・被災者支援の観点</p> | <p>「与えられる」支援から脱却し、支援組織と連携・協働することで地域住民が主体的に行動し達成することで、本来皆様がもっている「意欲」を引き出し、「やりがい」や「生きがい」を取り戻していただくことが期待される。</p> <p>様々な支援の在り方がある中、それらの団体が集う「場」の存在を発信し、連携することで小さな支援の「輪」が大きな「輪」となり波紋のように広がっていくことが期待される。これまで、支援したくてもどうして良いのか分からなかった団体が多くあり、支援の方法についても情報提供し、被災地との「絆」を深める機会を創出することが可能となる。</p> | | | | |
| <p>2. 取組実施主体の運営力強化の観点</p> | <ol style="list-style-type: none"> ① これまではNPO職員が職務の中で対応してきた。この事業を機に組織編成し、理事を中心とした担当部署を設置することで、事業内容を理事全体で網羅することが期待できる。 ② 全国ネットワークの構築を目指すため、連絡協議会等との連携やSNSの活用など、専任セクションの設置を図り、情報の全国的な共有を目指す。 ③ NPO法人の職員や理事以外に、ボランティアの編成を行い、可能な限り事業のサポートを通じた交流を図る。 <p>上記の3点を重点項目に据え、各種研修を受講し、運営力の強化を図ることはもちろん支援先に出来るだけ出向き、交流し、実施体験を通じて被災地の「自立に向けた支援」を目指すことは、これから先我々が「新しい公共」を担っていくための人材育成にとってこれ以上ない経験の「場」となることに違いありません。また、交付金の事務処理などを適正に処理することで事務局の緊張感も高まり、今後の運営に自信をもって取り組むことが期待できます。</p> | | | | |
| <p>事業スケジュール</p> | <p>6月 現地コーディネーターの選任 十勝産「白樺の樹」第1回輸送・製品加工開始 全国総合型地域スポーツクラブ連絡協議会等打診。参加呼びかけ。</p> <p>7月 ネットワーク参加クラブ確定。</p> <p>8月 「夢工房 葛桜」及び葛尾村役場訪問 現在の仮設住民及び自治会との意見交換。 年3回のイベント趣旨説明。販売促進会議の開催。</p> <p>9月 「被災地の現状」をテーマに講演会を実施(葛尾村から北海道へ招聘) スキルアップ研修会の実施(NPOの協働をテーマに講師を調整)</p> <p>11月 全国物産展(仮称)の開催</p> <p>12月 十勝産白樺の樹第2回輸送</p> <p>2月 元気アップフェスタ(仮称)の開催</p> <p>3月 癒しのオアシスプロジェクト2014実行委員会の設置</p> | | | | |

| | |
|------------|--|
| 事業実施体制 | 実施責任者 磯田大治（NPO 法人おにスポ理事長） 被災地支援担当 佐藤孝夫（NPO 法人おにスポ事務局長）及び理事 全国ネットワーク担当 磯田大治（兼任） SNS 担当 佐藤加代子（NPO 法人おにスポ職員） 会計担当 柴田満（NPO 法人おにスポ職員） ボランティア担当 小森仁（NPO 法人おにスポ副理事長）及び理事 |
| 事業終了後の展開 | 事業終了後も「夢工房 葛桜」を維持し、支援の拠点としていきたい。 今回は年3度の企画を様々な団体とのコラボレーションで考えているが、事業終了後は、例えば、それぞれの団体が年1回程度の支援活動を行い、総数が5回となるようにその都度、参画できる団体をコーディネートし、人材や物資、知恵を含めた連携を図っていきたい。 |
| 事業の先進性・普及性 | ① この事業はこれまでの「与えるだけ」の支援から「自立に向けた」支援を目的にしています。仮設住宅の方々と連携・協働することで培う「意欲」は、今後は被災住民自らが主体的に取り組む原動力になることと思います。先の見えない状況であっても、何より「心の復興」が困難を乗り越える最高の武器となると考えます。 ② 今回は「新しい公共」の担い手として期待されている総合型地域スポーツクラブを中心とした全国ネットワーク構築を想定しています。国の施策により全国に普及されてきた総合型地域スポーツクラブはすでに3500を超え、その中のすべてとは言えないが、被災地支援について検討しているクラブも多くあります。それらの「想い」を結集する拠点を昨年度の事業で開設した「夢工房 葛桜」とし、有効活用していきます。短期的な事業に終始することなく、更なる発展的要素と継続的な支援展開を行っていくことが他のモデルとなるものと考えます。 |
| 特記事項 | 当法人はこれまでの支援活動で葛尾村役場様、仮設住宅自治会様との連携は円滑に行われております。恥ずかしながら支援開始当初は「与えるだけ」の支援に終始し、現在の支援の在り方については仮設住宅のみなさまに教えていただいた事が多くあります。「夢工房 葛桜」開設について、昨年度の交付金は別事業だったとは言え、縁あって支援に入ることとなった葛尾村様を継続して支援していることに変わりはありません。この事業を活用させて頂き、我々も更に運営力を強化して今後の支援活動に役立てていきますのでよろしく申し上げます。 もちろん、ある日突然、皆様が元の生活に戻り事業が終了することを願っております。 |

※用紙が足りない場合は、適宜追加してください。

※地域社会にとっての必要性（ニーズ）について確認できる資料（新聞の切り抜きやアンケート結果等）がある場合は、A4用紙1枚（両面可）に限り添付できます。

第3号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）
収支予算書

申請者名 特定非営利活動法人 おにスポ

【収入の部】

（単位：千円）

| 区 分 | 平成25年度 予 算 額 | 明 細 |
|--------------------------|-----------------|-----------------|
| ふるさと・きずな維持・再生 支援事業補助金 | 3,119 | |
| 自己資金（負担者名） | | |
| NPO法人おにスポ | 400 | NPO法人おにスポ復興支援基金 |
| 事業収入 | 103 | ふく福プロジェクト収益 |
| 収入合計 | 3,622 | |

【支出の部】

（単位：千円）

| 区 分 | 平成25年度 予 算 額 | 明 細 | |
|-------------|-----------------|--|--|
| 人件費（共済費を含む） | 938 | 現地コーディネーター：月9万円×9か月 NPO法人現地従事者報酬：日6,440円×20日 | 810,000 128,800 938,800 |
| 報償費 | 69 | 講師謝金 23,100円×3回 | 69,300 |
| 旅費 | 952 | 飛行機対応：年5回×8万円（航空代金、宿泊費、レンタカー） フェリー対応：3名×年3回×5万円（船舶代金、宿泊費、レンタカー） 講師旅費等：3.4万円×3回 | 400,000 450,000 102,000 952,000 |
| 需用費 | 453 | | |
| 消耗品費 | 23 | インクトナー、コピー用紙等 | |
| 燃料費 | 30 | レンタカー燃料等 | |
| 印刷製本費 | 400 | 講習会、講演会ポスター等 | |
| 役務費 | 10 | | |
| 手数料 | 10 | 振込手数料 | |
| 使用料及び賃借料 | 600 | スーパーハウスリース料 | |
| 委託料 | 600 | 白樺の樹伐採、梱包、輸送費等 | |
| 支出合計 | 3,622 | | |